

## 第4章 下関市の夜間景観形成の整備方針

### 4-1 夜間景観形成の流れ



#### 1 | 点の整備：単体のライトアップ施設

歴史的建築物、公共建築物、商業施設、集合住宅、観光施設など、施設ごとにライトアップの光を増やしていきます。

#### 2 | 面の整備：エリア

各施設の光を調和させることで魅力的な夜間景観が生まれます。また、各面（各エリア）に光のデザイン方針を持たせることでその場所にあった光が生まれます。そうすることで、街中に多くの視点場や回遊を促すポイントができます。

#### 3 | 動線の整備：各施設やエリアを巡る動線

視点場を巡るルートができるよう動線にも光を灯し、来訪者が安心・安全に回遊できる動線を整備することで、下関の夜間景観を楽しむことのできる環境が整えられます。

## 4-2 夜間景観形成の整備方針

下関市の夜間景観形成の整備方針を以下のように定めます。

### 方針1 | 下関らしい光の環境を創造します

本ガイドラインで設定した下関駅から唐戸にかけてのエリアには、美しく連続した海岸の地形などの自然景観、歴史的な建築物、海岸沿いに並ぶ観光施設など、下関の歴史や文化を表す様々な要素があります。その中で、美しい夜間景観を望むことのできる動線を「夜間景観軸」として位置づけ、下関らしい光環境を創造します。

### 方針2 | 特徴的な光の要素を活用します

横に広がる光や高低差のある光、暖かみのある電球色の光など、特徴的な光の要素を構成し、歴史的建築物やボードウォークなどの素材に合った光の色を用いることにより、景観の質を高めるとともに、視覚的にバランスの取れたものとします。

### 方針3 | 明暗のバランスを効果的に用います

建築物の意匠、造形をより魅力的に見せるため、単に照らすのではなく、明暗のバランスを効果的に使い、建物の魅力を更に引き出します。また、地形の特徴を活かした明と暗のバランスを上手く活用し、人々がまちを回遊したくなるような環境を整備します。更に、夜間景観の魅力が広がるようなイベントや季節に応じた光の仕掛けづくりを行います。

### 方針4 | 安心・安全な暮らしの光を確保します

市民や来訪者が、夜間においても安心・安全に回遊できる光の環境を整備します。路面の水平面照度だけではなく、視覚的に働く鉛直面照度にも配慮し、適切な照度を確保します。

## 4-3 ゾーンごとの夜間景観整備方針

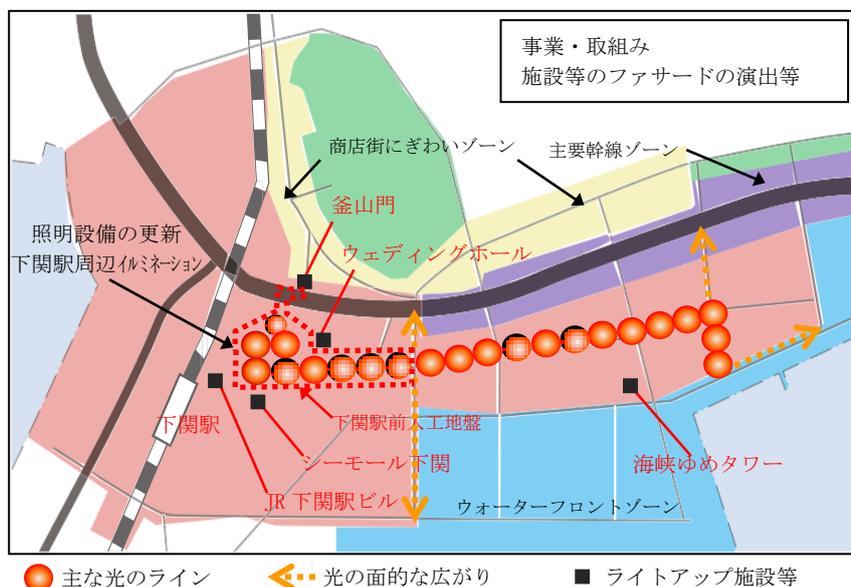


### 各ゾーン | 光のコンセプト

対象エリア（下関駅～唐戸地区）を5つのゾーンに分け、光のコンセプトを提示します。

ゾーン	光のコンセプト
都市拠点ゾーン	新しいまちの光
ウォーターフロントゾーン(本港地区、岬之町地区、東港地区、唐戸ウォーターフロント地区)	水際の光のライン
主要幹線ゾーン	エリアの軸となる光
商店街にぎわいゾーン	繁華街のにぎわいの光 (グリーンモール商店街、豊前田・細江商店街) 今と昔を照らす光 (唐戸商店街)
都市居住ゾーン	安心・安全のためのやさしい光

## 都市拠点ゾーン | 下関のまちへと続く玄関口 -新しいまちの光-



### 現状 |

下関駅前は、鉄道、バス等の交通結節点であり、大型商業施設や隣接する商店街等をはじめ、経済、観光、文化などの多彩な都市機能が集積しています。下関駅前の人工地盤から、下関のシンボルである海峡ゆめタワーを中心に眺望が確保されており、リズムの良い連続的な照明により、自然と街中へ導かれます。

### 課題・整備方針 |

周囲の景観と一体化した調和のとれた夜間景観とするためには、周辺の商業施設等のライトアップ等によるファサード（建物の正面）の演出や外観のライトアップの照度、色温度等の調整が重要となります。都市拠点ゾーンのランドマークである海峡ゆめタワーを中心とした面・線・点の光の環境をバランス良く整え、市の玄関口にふさわしい魅力ある夜間景観を演出し、各ゾーンへの出発点となるよう整備します。

### 事業・取組み |

内容	事業者
下関駅前人工地盤（エキマチ広場） 照明設備の更新	行政
施設等のライトアップ等によるファサードの演出	民間
下関駅周辺イルミネーション	民間・行政



下関駅前人工地盤



下関駅前人工地盤から海峡ゆめタワー方面を望む



海峡ゆめタワー前の通り



建物のファサードの演出例（JR下関駅、JR下関駅ビル）



店舗のファサードの演出例（下関駅前）



下関駅周辺イルミネーションの様子

### | ウォーターフロントゾーン全域における夜間景観のポイント

本市の中心部における夜間景観の特徴の一つとして、海に囲まれた地形に沿って水際の光のラインが広がり、高所や対岸から見た時に、良好な景観を楽しむことができます。現状としては、部分的に光の帯が途切れている場所も見受けられるため、水際の光のラインを確保するための取組みが重要となります。



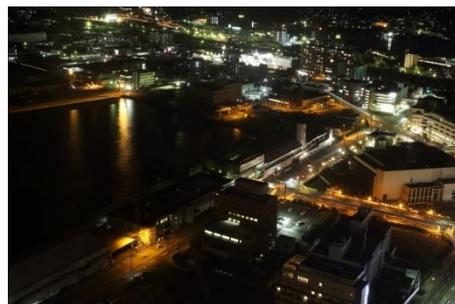
● 水際の光のライン

### 現状 |

下関港国際ターミナルのある本港地区は、人・物・情報の国際交流拠点として下関港の中心的役割を担うポートエリアです。国際フェリー等の大型船の接岸時には、港と一体となった美しい夜間景観を楽しむことができます。



下関港国際ターミナル(大型船接岸時)



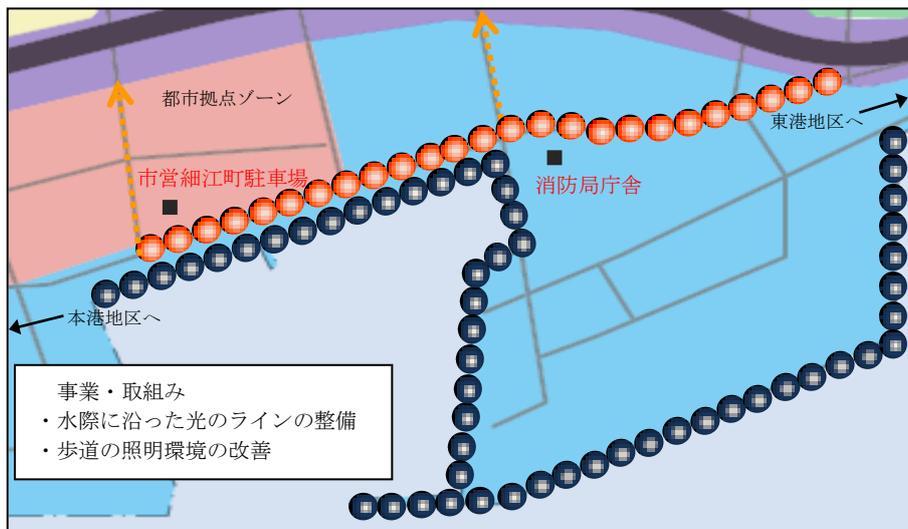
下関港国際ターミナル(大型船出港後)

### 課題・整備方針 |

大型船の接岸時には、ターミナルの照明と一体感のある美しい夜間景観が楽しめますが、出港後は、特徴的な光はなく寂しい印象を受けます。水際に沿って暖色系の照明を連続的に設置し水際の光のラインを整備することにより、国際ターミナルとしての風情が感じられる光の空間が演出されます。

### 事業・取組み |

内容	事業者
水際に沿った光のラインの整備	行政



### 現状 |

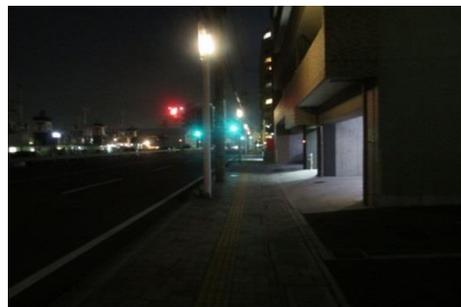
岬之町ふ頭には、倉庫や上屋、くん蒸庫などの施設があり、主に国際貿易に利用されていましたが、今後、新たな土地利用が検討されます。ふ頭に隣接する消防局庁舎では、屋上に設置された鉄塔のライトアップが行われており、岬之町地区のランドマーク的な存在となっています。



海峡ゆめタワーから岬之町ふ頭を望む

### 課題・整備方針 |

岬之町ふ頭及び隣接する水際線には照明が不足しており、全体的に暗さを感じます。また、周辺の歩道には、街路灯が設置されていますが、薄暗く感じられる場所があります。水際に沿って暖色系の照明を連続的に設置することにより、高所や対岸から見た時に、水際の光の連続性が感じられるような景観を目指す必要があります。また、周辺の歩道に適切な照度の街路灯を設置するなど、夜間においても安心・安全に回遊できる環境の整備が望まれます。



市営細江町駐車場前の通り

### 事業・取組み |

内容	事業者
水際に沿った光のラインの整備	行政
歩道の照明環境の改善	行政



岬之町ふ頭（現状）



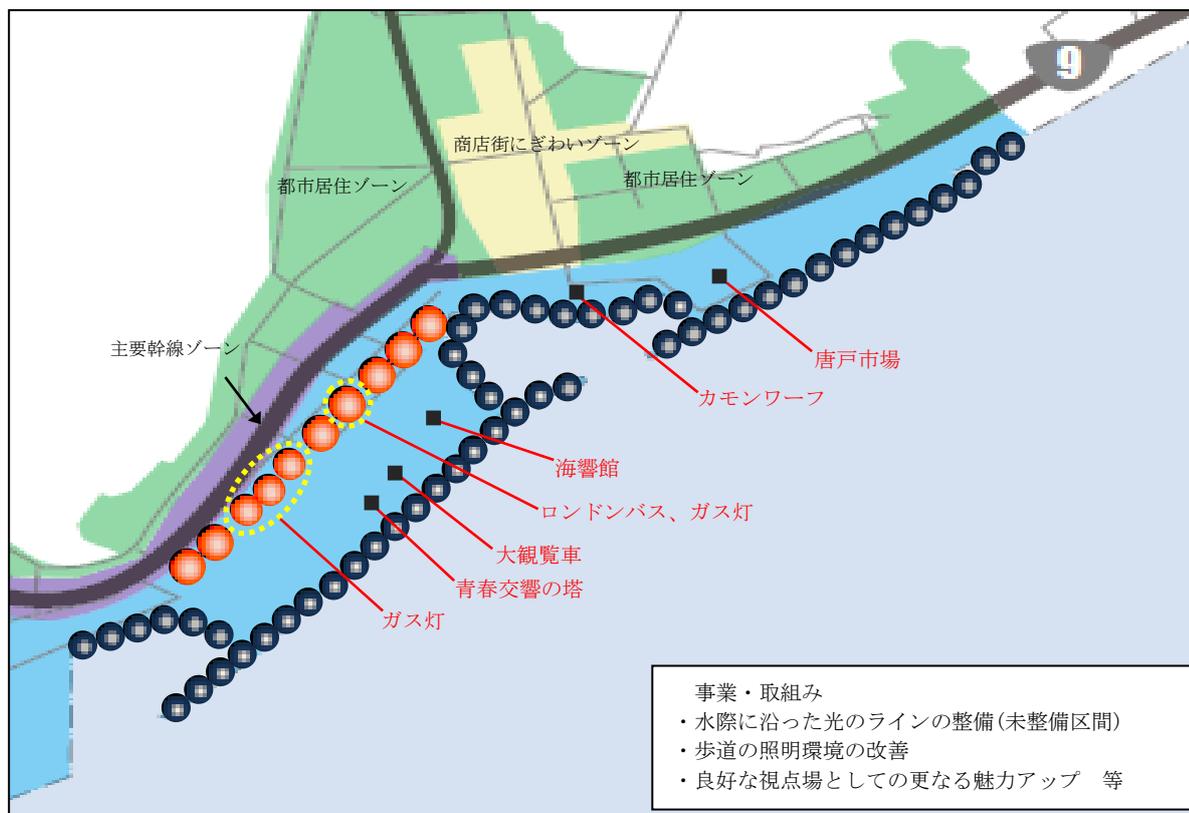
整備イメージ（水際に沿って暖色系の照明を設置）



市営細江町駐車場前の通り（整備前）



整備後（歩道に沿って暖色系の照明を設置）



## 現状 |

東港地区 (あるかぼーと) には、国際フェリー等の大型船が寄港できる旅客船専用岸壁が整備されており、利用されています。また、地区内には、アミューズメント施設である「はい！からっと横丁」、下関市立しものせき水族館「海響館」があり、関門海峡のパノラマを一望できる大観覧車は、夜間になると華麗にライトアップされ、地区のランドマークとなっています。隣接する唐戸ウォーターフロント地区には、飲食店や土産物品店が建ち並ぶシーサイドモール「カモンワーフ」、関門の台所として地元の新鮮な魚を提供する「唐戸市場」があり、あるかぼーととともに、関門海峡の景観と歴史など地域のポテンシャルの高いエリアとして、市内外を問わず多くの人々が訪れる一大観光拠点となっています。

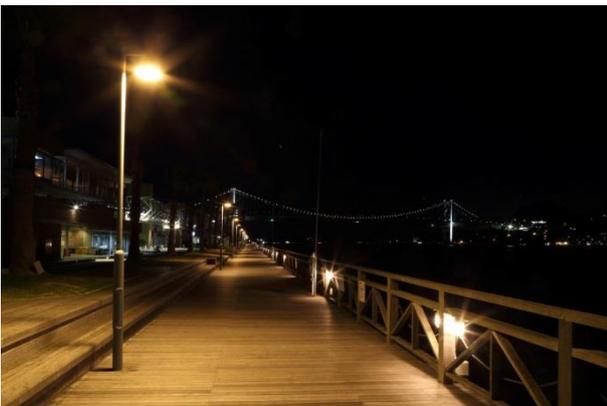
海沿いには、下関の夜間景観の個性を印象付ける暖かみのある色温度の連続照明が地形に沿って配置されています。下関の地形をかたどっているポール照明と手すり照明の連続する光の美しさが印象的であり、水辺と平行に見える長い建築物の光も含めて、対岸、高所から見た際に、下関らしさを表す非常に重要な光の要素となります。唐戸市場周辺は、門司港側の夜景、関門橋のライトアップ、夜間に関門海峡を航行する船舶の光を同時に楽しめる視点場にもなっています。コの字型の地形により、自らライトアップした光が海面に映り込むことで、幻想的な光を楽しむことができます。また、海を隔てて2つ並んでいる灯台は、恋人灯台と呼ばれ、左右に連なる光のラインが特徴的で、見る人の心を癒してくれます。



唐戸市場前から海響館、大観覧車を望む



恋人灯台からカモンワーフを望む



唐戸市場前のボードウォーク



あるかぼーとのフットライト

## 課題・整備方針 |

コの字型に入り組んだふ頭の水際のラインやボードウォークの照明、各施設のライトアップを活かしながら、上空や海上、対岸からの景観に配慮した魅力的な光の演出を行います。また、街路灯などを、電球色を基調とした色合いにそろえ、統一感のある落ち着いた雰囲気とします。更に、点としての整備のみではなく、点と点を結ぶ動線の整備、統一感のある面的な整備を進め、海面に煌く光を活かした海沿いの観光都市ならではの特性を活かした夜間景観の形成を図ることで、「暖かみのある光に包まれたまち歩き」が楽しめる空間づくりを目指します。

## 事業・取組み |

内容	事業者
水際に沿った光のラインの整備（未整備区間）	行政
歩道の照明環境の改善	民間、行政
良好な視点場としての更なる魅力アップ （海面に映り込む光の演出、水際空間の演出 等）	民間、行政
魅力を発信するための光の演出	民間、行政
イルミネーション等のイベント開催	民間・地域団体等



あるかぼーと広場前の歩道（整備前）



整備後（歩道に沿って暖色系のガス灯を設置）



海響館前の歩道（整備前）



整備後（歩道に沿って暖色系のガス灯を設置）



アンカー広場（現状）



整備イメージ（アンカー及び植栽のライトアップによる光の演出）

## 主要幹線ゾーン | 下関駅前と唐戸をつなぐ軸 -エリアの軸となる光-



### 現状 |

本市の主要幹線道路である国道9号は、中心市街地の核となる下関駅前地区と唐戸地区をつなぐ軸として重要な役割を担っており、沿道には、商業、業務、文化施設が建ち並び、歩行者や車両の往来が多い区域です。道路照明は、道路管理上及び交通安全上の基準により設置されており、車道、歩道共に照度が確保されています。

道路沿いには、ケヤキ並木が続いており、市内中心部を象徴する良好な景観が形成されています。また、唐戸地区の沿道には、下関南部町郵便局や旧秋田商会ビル、旧下関英国領事館等の歴史的建築物があり、夜間はライトアップされています。



海峡ゆめタワーから国道9号を望む

### 課題・整備方針 |

主要幹線ゾーンの夜間景観は、主に道路照明と沿道の施設等の照明で構成されていますが、エリアの軸となる国道9号を中心とした良好な夜間景観とするためには、道路沿いの施設等のライトアップ等によるファサード（建物の正面）の演出や間接照明の導入、店舗の内側から街路に光がこぼれるような照明の演出等の取り組みが重要となります。また、道路沿いの植栽や樹木へのライトアップを行うなどの取り組みも想定されます。

### 事業・取組み |

内容	事業者
施設等のライトアップ等によるファサードの演出	民間
国道9号沿いの植栽・樹木等のライトアップ	行政



国道9号沿いの歩道（現状）



整備イメージ（樹木のライトアップ、沿道の建物等のファサードの演出）



建物のライトアップの演出例（下関南部町郵便局、旧秋田商会ビル）



建物のライトアップの演出例（旧下関英国領事館）

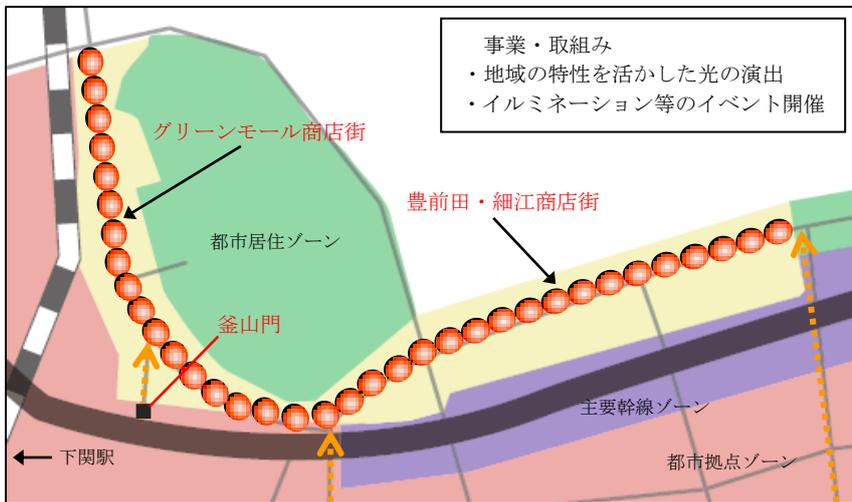


建物のファサードの演出例（下関市生涯学習プラザ）

## 商店街にぎわいゾーン |

下関駅前の個性あふれる商店街 グリーンモール商店街、豊前田・細江商店街  
 歴史、文化の感じられる商店街 唐戸商店街

### 1 | グリーンモール商店街、豊前田・細江商店街 - 繁華街のにぎわいの光 -



「釜山門」(グリーンモール商店街入口)



豊前田・細江商店街

## 現状 |

グリーンモール商店街は、下関駅前から北に伸びる異国情緒漂う商店街です。地区内には、韓国料理店や韓国食材店が建ち並び、下関市の姉妹都市である釜山の下町の雰囲気が漂っていることから、「下関のリトルプサン」と呼ばれています。アーケードには、韓国のランタン型照明が設置されることもあり、商店街のにぎわいを創出しようとする試みが行われています。

豊前田・細江商店街は、国道9号と並行して下関駅周辺から唐戸に至る補助幹線道路沿いに飲食店が建ち並び、夜間を中心に多くの人々が訪れにぎわいを見せる商店街です。

## 課題・整備方針 |

グリーンモール商店街においては、まちの魅力を更に高めるため、地域の特性を活かした光の演出に努めます。また、アーケードの照明は、一定の照度が確保されていますが、グレア（不快なまぶしさ）を軽減し、個々の店舗の個性が感じられるような光の演出に努めます。

豊前田・細江商店街においては、夜を中心とした繁華街としての魅力やにぎわいを創出するため、高輝度、内照式の広告物をなるべく避けるよう心がけ、グレア（不快なまぶしさ）の軽減に努めます。

## 事業・取組み |

内容	事業者
地域の特性を活かした光の演出	民間・地域団体等
イルミネーション等のイベント開催	民間・地域団体等

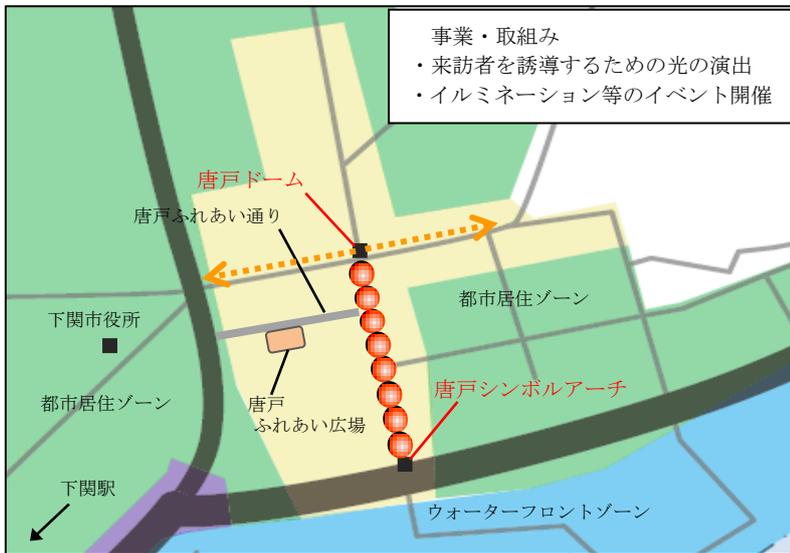


グリーンモール商店街（韓国のランタン型照明設置の様子）



豊前田・細江商店街（飲食店のファサードの演出例）

## 2 | 唐戸商店街 -今と昔を照らす光-



唐戸シンボルアーチ



唐戸ドーム



商店街の通り（唐戸ふれあい通り）



商店街の広場（唐戸ふれあい広場）

### 現状 |

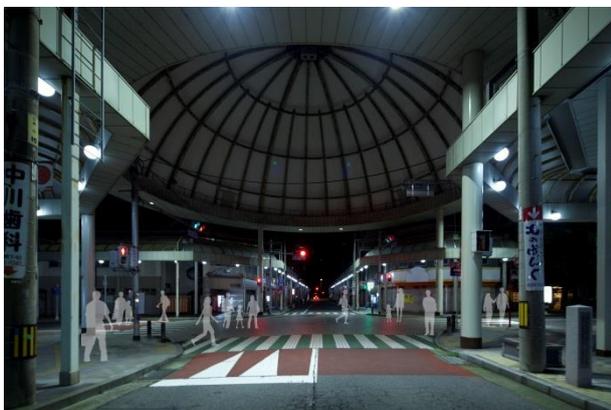
唐戸商店街は、唐戸市場、カモンワープなどウォーターフロントエリアに隣接し、地区内の通りに沿って多数の商店街が存在する商業の中核です。また、赤間神社、亀山八幡宮、旧下関英国領事館、旧秋田商会ビル等の歴史的建築物が集積する地域資源の豊富な地区でもあり、各施設にはライトアップ設備があり、年間を通じて四季折々の景観を楽しむことができます。

## 課題・整備方針 |

唐戸商店街に隣接するウォーターフロントエリアには、年間を通じて多くの観光客が訪れますが、国道を挟んだ向いの商店街へ誘導するまでには至らず、来訪者が区内を回遊したくなるような仕掛けづくりが求められています。手法の一つとして、魅力ある夜間景観の演出により来訪者を誘導し、夜のまち歩きをしたくなるような環境を整備することが考えられます。具体的には、カモンワークから「唐戸シンボルアーチ」を経て「唐戸ドーム」へいざなうための光の演出などが想定されます。

## 事業・取組み |

内容	事業者
来訪者を誘導するための光の演出	民間・地域団体等
イルミネーション等のイベント開催	民間・地域団体等



唐戸ドーム（現状）



整備イメージ（来訪者を誘導するための光の演出）



## 現状 |

下関駅から唐戸にかけての国道9号以北の地区では、中心部に隣接する利便性の高い居住지가広がっています。地形の特徴として傾斜地が多く狭隘な道路が多く存在します。地区内の道路は、主に地元住民が日常的に使用する生活道路であり、夜間照明としては、街路灯が過半を占めています。沿道には、山口県の指定有形文化財である山口銀行旧本店があり、夜間はライトアップされています。また、下関市役所前の通りにはガス灯が設置され、下関らしいレトロな雰囲気醸し出しています。



下関商工会議所前の通り



下関市役所前のガス灯の通り

## 課題・整備方針 |

国道9号と並行する補助幹線道路では、街路灯の数が少ない箇所があります。そのため、歩行者が、夜間も安心・安全に通行できる照明設備の確保が重要となります。

事業・取組み |

内容	事業者
歩道の照明環境の改善	行政



山口銀行旧本店前の通り（現状）



整備イメージ（歩行者の安心・安全に配慮した街路灯の設置）

引接寺（唐戸地区）における照明実験の様子（平成26年11月実施）

整備前	整備後
	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段：フットライト照明の追加</li> <li>・三門：ライトアップ照明の追加</li> </ul>

## 4-4 夜間景観軸の整備方針 ～夜も出かけた街・しものせき～

下関には、迫力のある関門海峡、美しく連続した海岸の地形、緑地などの自然景観、関門橋、歴史的な建築物、海岸沿いに並ぶ観光施設など、下関の歴史や文化を表す様々な要素があります。

ここでは、本ガイドラインで設定した下関駅から唐戸にかけてのエリアで、美しい夜間景観を楽しむための動線として、次の夜間景観軸（三本のルート）を位置付け、行政・市民・事業者等が連携して整備を進めます。（夜間景観軸の詳細は、P43 をご覧ください。）

Aルート | 海辺の美しい光のラインとランドマークを巡るルート

Bルート | 歴史的建造物と明るく広々した歩行空間を楽しむルート

Cルート | ガス灯の明かりや繁華街のにぎわいを楽しむルート

夜間景観軸（三本のルート）の内、関門海峡の躍動感を肌で感じながら下関の特徴的な光を最も楽しめるルートが「Aルート」です。

### ◇Aルートの特徴 | 海辺の美しい光のラインとランドマークを巡るルート

- ①美しく連続した海岸の地形やコの字型に入り組んだふ頭の水際のラインを最大限に活かした「水際の連続した光」
- ②海沿いの施設等のライトアップやボードウォーク・ふ頭などに配置された照明が海面に映り見る人にやすらぎを与える「海面に煌めく光」
- ③対岸の門司港地区に連なる「広がりのある遠景の光」
- ④海峡ゆめタワー、大観覧車、消防局庁舎から発せられる華麗な「ランドマークの光」

### ◇Aルートの魅力を高めるための整備方針

- ①Aルートに含まれるゾーン  
都市拠点ゾーン  
ウォーターフロントゾーン（岬之町地区、東港地区、唐戸ウォーターフロント地区）
- ②整備方針
  - ・下関駅前人工地盤（エキマチ広場）の照明設備の更新
  - ・沿道の施設等のライトアップ等によるファサード（建物の正面）の演出
  - ・ルートの回遊性を高めるための安心・安全な光環境の整備
  - ・海沿いの歩道と相性の良い電球色を基調とした色合いの街路灯の整備
  - ・点と点を結ぶ動線の整備、統一感のある面的な整備
  - ・海面に映り込む光の演出や水際空間の演出等の良好な視点場の整備
  - ・魅力を発信するための光の演出
  - ・イルミネーション等のイベントの開催

## ◇Bルート of 整備方針

### 歴史的建造物と明るく広々した歩行空間を楽しむルート

- ・道路沿いの施設等のライトアップ等によるファサード（建物の正面）の演出
- ・国道9号沿いの植栽・樹木等のライトアップ

## ◇Cルート of 整備方針

### ガス灯の明かりや繁華街のにぎわいを楽しむルート

- ・ルートの回遊性を高めるための安心・安全な光環境の整備

## □エリア全体における将来に向けた取り組み

### 夜間景観軸（3本のルート）上の結節点の整備

本ガイドラインでは、下関駅から唐戸にかけて3本の並行したルートを提案していますが、各ルート間をつなぐ夜間景観に配慮した通りの整備により結節点となる場所を増やし、その場所に人々の憩いの場となるカフェや休憩スペースなどを設け、街中を散策する人々が、それぞれのお気に入りのルートを回遊できる環境の整備が望まれます。

結節点の整備は、街中を散策する人々にとってルートの選択肢が増えるだけでなく、エリア内の回遊性の向上にもつながるため、今後のまちづくりを考える上で重要となります。（結節点の候補については、P43をご覧ください。）

### 「ソフト事業」との連携による夜間景観形成の推進

夜間景観軸（三本のルート）における良好な夜間景観の形成は、都市としてのブランドイメージの向上や交流人口の拡大等の波及効果が期待されます。夜間景観軸の整備にあたっては、建物のライトアップや街路灯の整備などの「ハード事業」だけでなく、下関の夜間景観の魅力について市内外へ広く情報発信を行い、行政・市民・事業者等の連携により、様々な「ソフト事業」への取り組みを実践していくことで、エリア内における回遊性の向上や夜間におけるまちなぎわい創出が図られます。

（取り組み例）

- ・ウェブページ、フェイスブック等を活用した情報発信
- ・観光振興施策との連携（観光客を対象とした「夜景観光ツアー」等の実施）
- ・商業振興施策との連携（商店街及び地域のまちづくり団体との連携によるイベント等の開催）
- ・各季節をイメージした色合いのイルミネーションによる街中の演出
- ・対象エリア内の主要な施設等の一斉ライトアップの実施



ふれあいオープンテラス(唐戸商店会)



唐戸公園イルミネーション



エキマチ下関イルミネーション（下関駅周辺イルミネーション）

